

平成29年度第3回若葉区支え合いのまち推進協議会議事要旨

1 日 時 平成29年12月14日（木）10時00分～12時00分

2 場 所 若葉保健福祉センター3階 大会議室

3 出席者

(1) 委員 赤間委員、市原委員、江口委員、江澤委員、小川委員、大嶋委員、尾出委員、尾崎委員、角田委員、加藤委員、菊次委員、小出委員、佐々木委員、立野委員、田中（要）委員、田中（由）委員、津田委員、鶴岡委員、錦織委員、縫部委員、畑委員、畑山委員、東田委員、日暮委員、布施委員、松野委員、真鍋委員、山内委員、山谷委員、和田委員

(2) 事務局 石原保健福祉センター所長、岡本地域づくり支援室長、萩原高齢障害支援課補佐、田中高齢障害支援課主査、黒木地域福祉課主査、鈴木社協区事務所主査補、丹下高齢障害支援課主任主事、島野地域福祉課主任主事

4 議題

事例紹介 (1) 幸町2丁目地区部会「カフェさいわい」について
(2) 都賀の台生活便利帳について
(3) 地域拠点を活用した「TSUGAnoわ こども食堂」について

5 報告事項

(1) 市民説明会について
(2) 市社会福祉審議会地域福祉専門分科会の審議結果について

6 その他

第3期若葉区支え合いのまち推進計画の重点取組項目の実施結果について

7 議事の概要

(1) 事例紹介 (1) 幸町2丁目地区部会「カフェさいわい」について
幸町2丁目地区部会 長岡部会長より説明した。
(2) 事例紹介 (2) 都賀の台生活便利帳について
都賀の台支え合い委員会 山口会長より説明した。
(3) 事例紹介 (3) 地域拠点を活用した「TSUGAnoわ こども食堂」について
地域拠点として活動している竹嶋氏、田中氏より説明した。
(4) 報告事項 (1) 市民説明会について
高齢福祉課 黒木主査より説明した。
(5) 報告事項 (2) 市社会福祉審議会地域福祉専門分科会の審議結果について
高齢福祉課 黒木主査より説明した。

8 会議経過

- (1) 開会（事務局）
- (2) 開会挨拶（津田委員長）
- (3) 議事

○委員長

それでは事例紹介（1）幸町2丁目地区部会「カフェさいわい」について、幸町2丁目地区部会 長岡部会長より説明をお願いしたい。

○長岡部会長

幸町2丁目は、UR都市機構が整備した千葉幸町団地が大部分を占め、高齢者数、3,425名（高齢化率29.1%）、独居高齢者数787名、自治会加入世帯数5,984世帯（99.9%）、共同住宅数5,899世帯（99.5%）という地域である。

美浜区の自治会加入世帯数の平均が70%程度であるのに対し、ほぼ全世帯が自治会に加入しており、団地やマンションなどの共同住宅に居住している。

地区部会の主な活動は、敬老会、長寿を祝う食事会、男性料理教室、幸町中央診療所デイ・ケアでのボランティア活動、いきいきサロン、施設見学会等を実施している。

地区部会エリアの支えあいのまちの重点取組項目は、誰もが暮らしやすい環境づくり、居場所、交流の場づくりとしている。

高齢者世帯が増加する中、UR都市機構が幸町団地の改修に伴い、団地住民に中心街に何を求めているかアンケートをした結果、「高齢者・子育て世帯等に配慮したまちづくり」として、団地内敷地に特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、子育てリラククス館等の複合福祉施設を誘致することとなり、平成25年12月特別養護老人ホームしょうじゅ美浜が開設された。

カフェさいわいの成り立ちは、幸町団地自治会に厚生労働省が指定する「安心生活創造事業」のモデル地区として市より打診があり、平成21年に千葉県社会福祉会が市の委託を受ける形で、一人暮らし高齢者見守り支援事業「みまも〜れ幸町」をモデル事業として開始した。その後、予算が打ち切りとなり消滅するところを、平成24年にあんしんケアセンター幸町が業務を継承し、安心協力員（見守りボランティア）とあんしんケアセンター職員により見守りが継続された。

3〜4か月に1回行っていた安心協力員会議の中で、何か他に支え合い活動が出来ないかとの熱い思いから、地域の集いの場での見守り活動という意見が出て、中心街にある特別養護老人ホームしょうじゅ美浜のフロアが検討され、1年をかけ地域カフェ「カフェさいわい」ができた。

オープンから現在まで、特別養護老人ホームに入所している人を含めると100名以上の方がカフェに参加している。地域住民が気軽に立ち寄れる場となっている社会福祉施設と地域をつなぐ役割を担っており、男性の利用も増えてきている。

毎週月曜日に開催されているが、毎日でもカフェがあったら嬉しい、明るい雰囲気ですぐリラックスしてお喋りが出来るなどといった喜びの感想が利用者からも寄せられている。

今後は、閉じこもりがちな高齢者や子育て世代などの利用を増やし、より一層高齢者との交流を図っていきたい。

○委員長

ただいまの説明に対し、何か質問等があれば、発言をお願いしたい。

○委員

高齢者の独居老人が多い地域だと思うが、高齢者の見守り支援の「みまも～れ幸町」は、どのような支援をしていたか。

○長岡部会長

団地の5階など高所に住んでいる高齢者は、部屋から出られるよう、UR都市機構に対してエレベーターをつけてもらうよう依頼したり、若い世代との世帯間でも、見守りをしてもらうなど、人と人のつながりに工夫している。

地域の特徴ではあるが学校と地域関係が非常によい。中学生に対して敬老会で学校を利用する際は会場設営を手伝ってもらうことや地域の防災訓練でも参加してもらうことや高齢者から昔遊びの伝承をしているなど、中学生を地域で重要視している。

昼間、大人は仕事に出かけており、地域には中学生しかいない。災害時には地域の事を知りつくし、体力もある中学生は頼りになり、高齢者を見守ってくれるであろうというのが一番の理由である。

○委員長

次に、事例紹介（2）都賀の台生活便利帳について、都賀の台支え合い委員会 山口会長より説明をお願いしたい。

○山口会長

都賀の台は、昭和48年に造成された1戸建ての1,300区画のニュータウンであった。40年が経ち2割の人口が減少し、人口3,270名、自治会加入率97%、高齢化率49.2%、75歳以上の独居者101世帯と高齢化が加速している。

自治会役員が1年で交代し、継続して地域を支えていくことが困難であったため、平成27年度の自治会長のもと、自治会の下部組織として、支え合い活動委員会が発足した。

1年目は、記名式のアンケート調査を実施した。

実施用紙は、共通用紙、支援希望者用紙、支援協力者用紙と3種類用意した。

アンケートの結果、支えを希望したが78名、ボランティア活動に共鳴し支援を希望が364名となり、両者をカップリング（同意者の締結）し支え合いの仕組みを構築できた。

支え合いのイメージとして健康長寿、安全・安心、交流・ふれ合いの仕組みと4つの体制とした。

昨年度の安全・安心活動では、ごみ出し支援事業、高齢者緊急通報装置の普及であったが、今年度の主な活動は、都賀の台生活便利帳の配布、生活支援活動のしおりの配布、気付きのポイントの配布を各家庭に説明して配布した。

都賀の台生活便利帳は、高齢化の進展により重要性の高まる医療、看護、介護といった高齢者保健福祉に係る公的及び民間のサービス情報及び日常生活支援活動を補完する情報が、即座にわかるよう8名によって半年かけて作成されたものである。

都賀の台生活便利帳が作成された経緯は、地区として介護が必要な高齢者が多いが、必要な時に必要な情報がすぐに入らないという現実があったためである。

次に、気付きのポイントの配布は、地域ぐるみとして、隣人への見守り・支え合いとして、気付きのポイントの事例を掲載しわかりやすくまとめたものである。

次に、交流・ふれ合いとしては、交流の場の提供コミカフェ「ささえ愛」を自治会で月2回開催、都賀の台交流サロンを月1回開催している。

健康長寿としては、介護予防健康体操を実施している。

最後に終の住み処として、安全で安心して心豊かに住める町づくりを目指してこの活動を継続していきたい。

○委員長

ただいまの説明に対し、何か質問等があれば、発言をお願いしたい。

○委員

自治会加入率が97%と高く、自治会活動がしっかりしていると思うが、自治会と支え合い活動委員会との連携はどうなっているのか。

○山口会長

支え合い活動委員会は自治会の下部組織であり、メンバーも継続できるような体制をとっている。更に下部組織として1～6地区までの支え合いの会があり、総勢119世帯が入っており、継続した支援が出来るような体制である。

○委員長

次に、事例紹介(3)地域拠点を活用した「TSUGAnoわこども食堂」について、TSUGAnoわこども食堂代表の田中氏、竹嶋氏より説明をお願いしたい。

○田中氏

私は、平成25年10月から、自宅1階のスペースを使って、自宅開放型コミュニティハウス「Treehouse」をスタートした。

活動のモットーは「こどもを真ん中に地域の人と人を繋げる」ことで、地域のニーズを掘り起こしながら子育て支援、ママ支援、世代間交流、若者支援、障害児者支援、こども向けイベント、地域おこしイベントなど様々な取り組みをした。

活動をしている中で、こども食堂という活動をニュースで知り、興味を持ち調べていくこととなった。

こども食堂の名づけ親である近藤さんは、「こどもが一人でも安心して来られる無料または定額の食堂」であり、こどものためだけでなく、高齢者の食事会にこどもが参加している場合なども、こども食堂と広くとらえており、私も何か出来ないかと考えた。

こども達を取り巻く若葉区の環境は、千葉市で生活保護率が一番高く、こどもの貧困も加速度的に増えている状況である。こどもも高齢者も孤食が増えている中、地域の中にこども食堂があれば交流できると考え、立ち上げることとなった。

立ち上げる中心になったのは、地域のママ達であった。

資金がなく、ママ達による手作りで準備を始めたが、なかなか思うようにいかず奮闘をしていたところ、パパ達が駆り出され、見かねたプロの方々も応援に来るなど支援の輪が広がり、食堂に必要なほとんどのものが寄付で集まるといった結果となった。時間はかなりかかったが、他人事でなく皆が自分事になれた。

こども食堂は、原則として月に1回実施しており、高校生や大学生のボランティアが宿題や勉強を教えてくれ、食事はみんなで準備をして一緒に食べている。

○竹嶋氏

私は障害者施設等の法人運営をしている。施設の障害者を気にかけてくれる暖かい町内に感謝の気持ちとして、自治会活動に取り組んでいる中、前町会長からの勧めで、町内自治会長に就任した。

自治会長になり、いろいろな課題に気づき始めたとき、田中氏からこども食堂を開きたいという話しがきた。

法人側の立場として、120名の子を預っているが、障害のある子が卒業後、どう働けるかということを考えていたところでもあり、TSUGA no わ こども食堂に場所を提供し、つながりを構築出来ればという思いもあり、共同して始めた。

この場所は、こども食堂でもあり、相談できる場所でもあり、地域の交流の場ともなった。

福祉の人間として、町づくりでみんながつながる場、こどもが遊ぶ場、気軽に相談できる場、誰もがつながり合い、包括的に支え合う社会を目指している。

みんながニコニコできる町というのは、障害者や高齢者やこどもであっても、みんなが住みやすい町となる。

自治会役員は高齢者が多く、若い現役世代をどう巻き込むかを検討した。いろいろな世代がそろって役員会をつくりたいと考え、数年で若い世代を増やした。

また、外国人も町の一員であるので、役員に入ってもらいたいと考えたとき、高齢者の方々からは反対されたが、交流の場で一緒に活動をした結果、外国人も良いとなった。知らないということが繋がらない原因であることを実感した。

大事なものは、支え合いは、それぞれ役割があるかである。

私の社会福祉施設では、若い職員側から高齢者を助けているという考えであったが、高齢者側からは、若い職員は施設で栄養バランスがある食事をきちんと一緒に食べられていて幸せだといったものである。

要点は、支えている側のつもりが、実は支えられているといったように、町もそういったものになりたい。

○委員長

ただいまの報告に対し、何か質問等があれば、発言をお願いしたい。

(特になし)

○委員長

次に、報告事項(1)市民説明会及び報告事項(2)市社協福祉審議会地域福祉専門分科会の審議結果について、地域福祉課黒木主査より説明をお願いしたい。

○黒木主査

市民説明会は、6区で開催された。主な意見等は本日の資料5に掲載している。

なお、「支え合いのまち千葉 推進計画(第4期千葉市地域福祉計画)(案)に関するパブリックコメント手続きを実施する。募集期間は平成29年12月19日～平成30年1月19日となっている。

次に、報告事項(2)市社協福祉審議会地域福祉専門分科会の審議結果であるが、計画の概要、計画の構成及び今後のスケジュールを審議した。

○委員長

ただいまの報告に対し、何か質問等があれば、発言をお願いしたい。

(特になし)

○委員長

次に、その他 第3期若葉区支え合いのまち推進計画の重点取組項目の実施結果について、事務局より説明をお願いしたい。

○事務局

第3期若葉区支え合いのまち推進計画の重点取組項目の実施結果については、各地区部会で実施結果記録票を作成、第4回若葉区支え合いのまち推進協議会において、各地区部会から5分程度で発表してもらおう。記録票の書式は、平成30年2月初旬に各地区部会に送付する。

○委員長

ただいまの報告に対し、何か質問等があれば、発言をお願いしたい。

(特になし)

○委員長

他になければ、本日の議題はこれで終了する。

○事務局

本日の会議の議事要旨は約1か月後、市のホームページに掲載を予定している。次回の開催日程は、平成30年3月15日(木)を予定。以上で、第3回若葉区支え合いのまち推進協議会を終了する。